

# 友好都市・中国厦门市より ニイハオ!

第7期 宜野湾市海外留学生  
棚原敏乃 ~その四~

皆さんこんにちは！  
廈門（アモイ）もすっ  
かり夏になり、私の  
帰国の日もだんだ  
ん近づいてきました。  
中華料理はとても  
おいしいので、かな  
り太ってしまい帰国  
前に痩せなきゃと焦  
っている今日この頃  
です。

今回は中国人の経済的落差についてお話  
しようと思います。中国は、言わずとも知れ  
た経済発展が目覚ましい国です。現在もなお  
建設ラッシュは進んでおり、ごもかしごも  
高層ビルなどの工事が進んでいます。また、  
急速な経済発展によりこの十数年間で人々  
の生活様式も大分変わったそうです。また、  
今の中国の一般家庭では、「一家に一台自家  
用車」が当たり前になってきています。特に  
廈門は、経済発展と並行して市民全体が豊  
かになっている代表的な都市ですが、そんな  
廈門でも人々の経済落差は顕著です。



▲アモイ（思明区の町並み）



▲世界遺産「土楼」  
（右から2人目が私です♪）

このように素晴らしい経験をさ  
せてもらえて本  
当に感謝してい  
ます。残りニヶ  
月ですが、悔いの  
残らないよう思  
う存分楽しもう  
と思います！  
それでは！  
再見ー！！

お問い合わせ先：  
秘書広報課（平和交流係）  
☎ 893-4411  
（内線402・423）

では高層マンションに住み、高級車を所持し、  
子供を留学させる余裕もある家庭と、もう  
一方では子供を学校に通わせるために朝か  
ら晩まで休みなく働いて、それでも生活が苦  
しく、仕方なく子供を働かせる家庭もあり  
ます。富裕層の人々から言えば、中国は日本  
に劣らない先進国だ！と言う彼らの意見も  
分かります。ですが、都市から一歩離れると  
インフラも進んでいない辺鄙な農村が多く、  
その人々から言えば発展途上などという言  
葉は自分たちの生活から見てもあまりパッ  
と来ないかもしれません。

そのような中国の中の落差は、ここに一年  
間留学したからこそ見えたものであり、また  
実際に中国人と交流したり、彼らの家でホ  
ームステイをしてその生活を体験したりし  
たからこそ気づけたものだと思います。

今回この留学を通してたくさんの方に  
出会いました。ここでは書ききれなかった経  
験や出会いも多くあります。この留学で私が  
得たものは生涯忘れることの出来ない良い  
思い出になるでしょう。また、一年の留學生  
活を経て、他国を知り、自国である日本を客  
観的に捉えることも出来ました。

旧盆が近づいてきました。今年の  
旧盆は、新暦九月一日（旧暦七月  
十三日）から入りを迎えます。盆は  
先祖供養の行事で、この時期、スー  
パーや市場では、準備の買い物客で  
賑わう光景が見られます。

## 変わりゆく旧盆

さて、この旧盆もよく見ると、色々  
な点で変化が見られます。例えば  
ウークイ（送り）の日は、旧暦七月十  
六日に行う字もありませんが、今で  
は十五日に定着しています。また、  
お供え物も各家庭で差はありますが  
が、ソーローハージャー（精霊用のお  
箸）と、ソーローボーチ（精霊用の箸）  
で使う植物（メドハギ）や、グーサン  
ウージ（精霊がお土産を持ち帰る  
ための棒、または杖）は、かつては野  
原やキビ畑から手に入れていた物  
が、スーパー等で売られています。

お供え物にしても別物が変わつ  
た物や、見なくなつた物があります。  
スイカやパイナップルを供える家も  
ありますが、以前はアタンの実が供  
えられていました。また、ソーローチ  
ブル（精霊の頭）と言つた饅頭型に盛  
つた土に、リンガン等の木の実に刻ん  
だサトウキビを挿して飾る家も、ほ  
とんど見ません。料理も重箱から準  
備が簡単で家族が食べやすいオー  
ドブルを供える家も目立ってきま  
した。旧盆が終わっても、連日続く  
旧盆料理に飽きを感じる経験をし  
た人もいらっしゃるでしょう。これは、飽  
食の時代ならではの感覚なのでは  
うか。



▲ソーローチブル（精霊の頭）〈左右〉

『宜野湾市史』への問い合わせ  
教育委員会文化課  
☎ 八九三―四四三〇

茶

くわーゆんだく

64

